

スクールカウンセラーだより

宝泉中
令和6年度9月号
スクールカウンセラー
丹羽 悦子

登校を渋り始めたら（中学校では・・・）

子どもが登校を渋るのは、本人の性格傾向や親の養育態度との関連も考えられますが、現実の登校しぶりの場面においては、学校のどこかに嫌なこと、不快な感情になることがあるからです。その要因を探ることより、まず、本人の学校生活をイメージすることが重要です。その子が、学校に身を置くことによって起こる憂うつや不安、恐れなど、本人が不快な感情と葛藤していることに注目し、ケアを図ることが求められています。

ケアの基本は、本人の中に起こっている不快感を増大させたり脅かしたりしないようにし、先生や家族、友達など関わる人との関係の中で安心感を得られるようにすることです。

そして、この不快な感情を取り除くために、一つは、その子どもの**耐性**（その場にふさわしい行動をとるためにしたいことを我慢する力と遠い目標達成のためにしたくないことでもあえてするように頑張る力）を育てること。もう一つは、**社交性**（うまく人とかわかれる能力）を育てること。それらの力を育てることで、乗り越えられるようになっていきます。 ※出典「子どもの様子が気になった時の49の接し方」久芳美恵子・梅原厚子編著 合同出版

・「耐性が不十分」のために登校を渋るもの

丁寧な支援で小さな成功体験を積み重ねましょう

がんばれがんばれって何を
がんばればいいんだよ



親が

- ・どんなことが学校で不快なのか聞き役に徹して聞く。
- ・どういう状態になったら「幸せ」か聞いてみる
- ・やれそうなことは何か考えさせ、親や先生にしてほしいことは何か聞いてみる
- ・「がんばれ」ではなく、具体的なアドバイスを
- ・小さな取り組みを絶えず応援し、小さな成功を喜び伝え合う

・「社交性が未発達」のために登校を渋るもの

親の支援でソーシャルスキルを身に付けさせましょう

- ・仲間と気まづくなっちゃった
- ・約束を断りたいけど、どう断ったらいいかわからない
- ・話題が合わなくて、話しが続かない
- ・明るくしたいのに暗くなっちゃう
- ・無理やり自分をみんなに合わせただけで楽しくない
- ・人前で話すと思うだけで緊張しちゃう
- ・自分の悪いことは謝って、あの人にも悪いことは謝ってほしいけど・・・
- ・年齢の違う人なら何でもないのに、同年齢の人とはうまく付き合えない



親が

- ・困った状況がないか注意して見守り、声を掛けていく
- ・困惑している様子を感じたら、気持ちや事情を聞き、一緒に考える姿勢で接する
- ・子どもにとって心地よい関わり体験の相手となる
- ・挨拶の仕方、うなずき方、謝り方、折り合いのつけ方など人とのかわり方のモデルを示す
- ・子どもが適切な対応をしたときに、賞賛したり、ほめたりし、自信を持たせる

何かありましたら、一緒に考えさせて頂ければと思います。

来校日 9月6日・13日・20日、10月4日 ※いずれも金曜日です

